リーガルテック社の知財関連AI化：現状と課題

2026年11月最新動向に基づく、導入効果と組織的対応の全体像

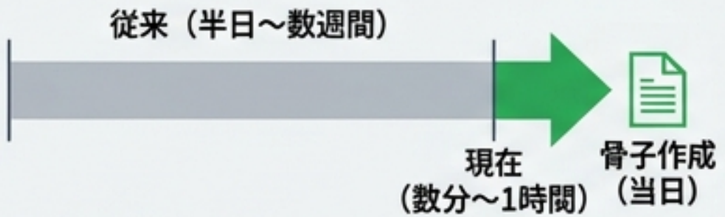
調査基準日: 2026年11月20日

GPT-6.2 Astra アナリストレポート

Gemini Notebook

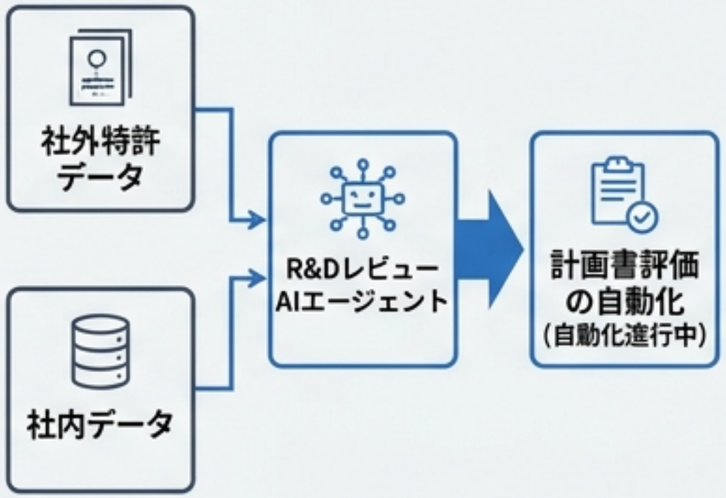
最大の成果

発明相談・先行特許の一次調査。
従来半日～数週間を要した工程が、数分～1時間に短縮。当日中の骨子作成も可能に。



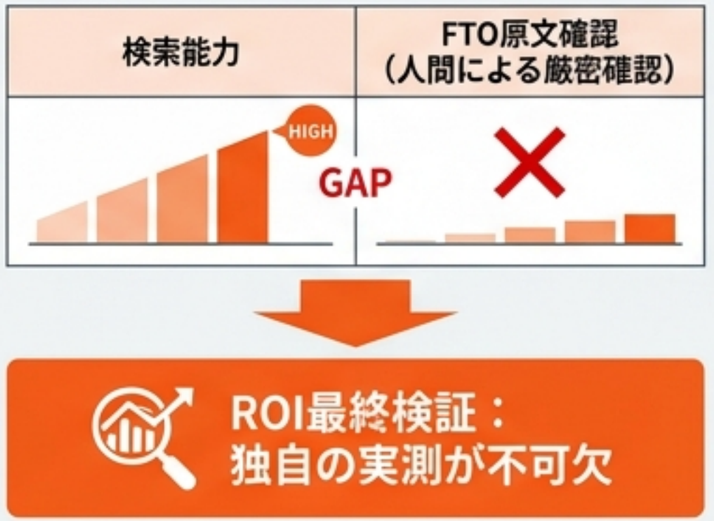
最新の潮流

点のツールから「線」のプロセスへ。2026年11月発表の「R&Dレビュー AIエージェント」により、社外特許と社内データを統合した計画書評価の自動化が進行中。

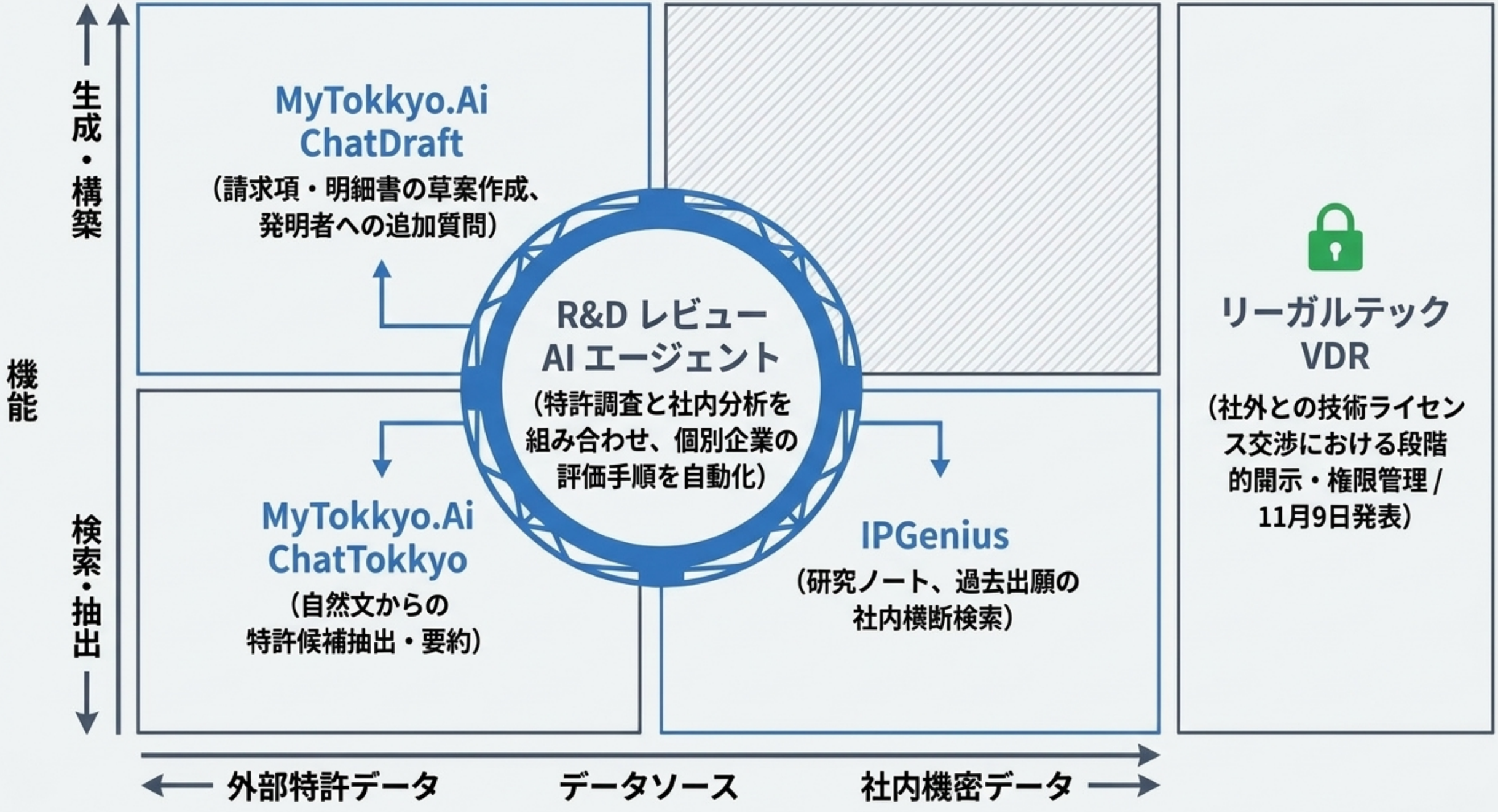


致命的なボトルネック

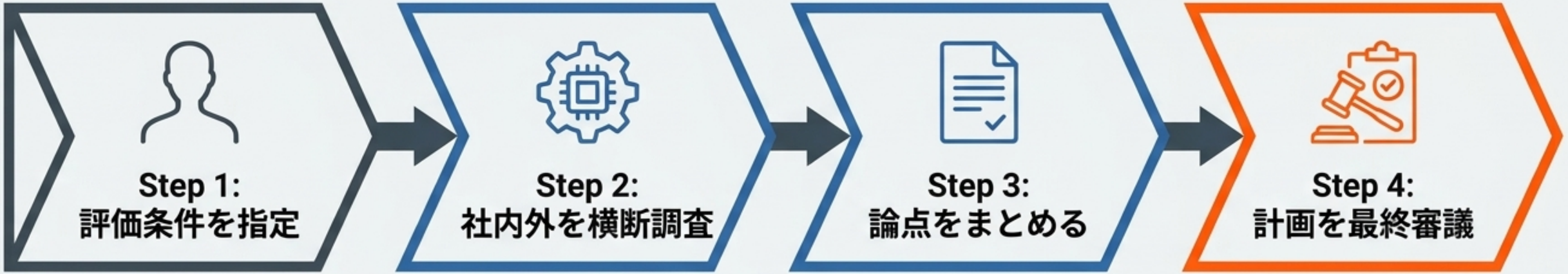
検索能力の高さと、侵害予防（FTO）に求められる厳密な人間による原文確認のギャップ。ROIの最終検証には独自の実測が不可欠。



Gemini Notebook



Gemini Notebook



研究計画書投入、
実現可能性・知財・
事業性の観点設定

MyTokkyo.Ai +
IPGeniusによる並列処理

判断理由、不足情報、
次アクションの報告書
作成・自動保存

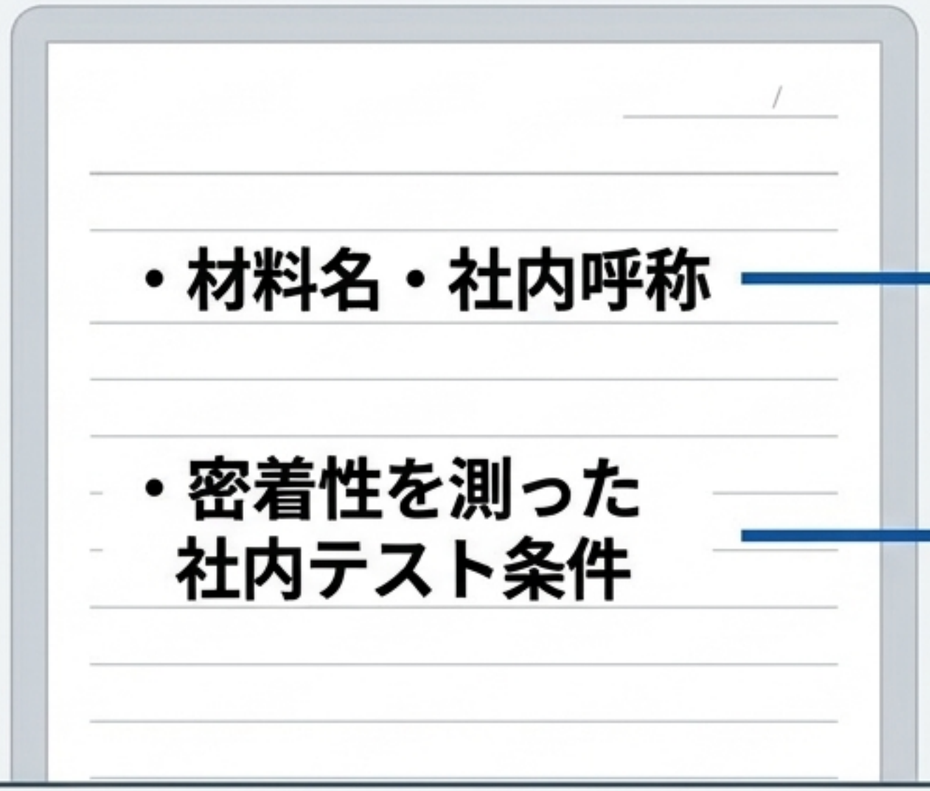
最終評価

最終判断は完全に人間に依存。
「研究責任者（実現可能性）」「知財部門（権利上の論点）」
「事業部門（顧客・採算）」の三位　一体の評価が必須。

Gemini Notebook

適用事例：電子材料開発における「翻訳」と「照合」

社内研究データ - 封止材・導電材料



- 材料名・社内呼称
- 密着性を測った社内テスト条件

AI照合

AI照合

先行特許公報 - 外部データ



- 特許公報特有の表現
- 他社特許の配合範囲

AIが双方を並列提示し、未試験の温湿度条件などを特定。
研究者は「追加試験の要否」の判断に直行できる。

Gemini Notebook

プレミアム戦略的コンサルング診断ダッシュボーボード

龍谷大学（11月17日取材）

半日 → 数分〜十数分

（当日中の骨子作成）

⚠ 注意：大学所定の簡潔な様式に出力するには追加指示（プロンプト調整）が必要。

ナミックス（6月22日事例）

数週間〜数ヶ月 → 約1時間

（先行技術の確認）

⚠ 注意：知財部門による事前整理を含む運用変更の成果であり、全員の実働工数削減率ではない。

バンク・オブ・イノベーション（6月9日事例）

早期開発見直し

（構想段階での重要特許発見）

⚠ 注意：財務的インパクト（回避費用）の定量データは未公表。

ZOZO / ジャトコ（11月事例・発表）

導入事実とユーザー会での討議を確認

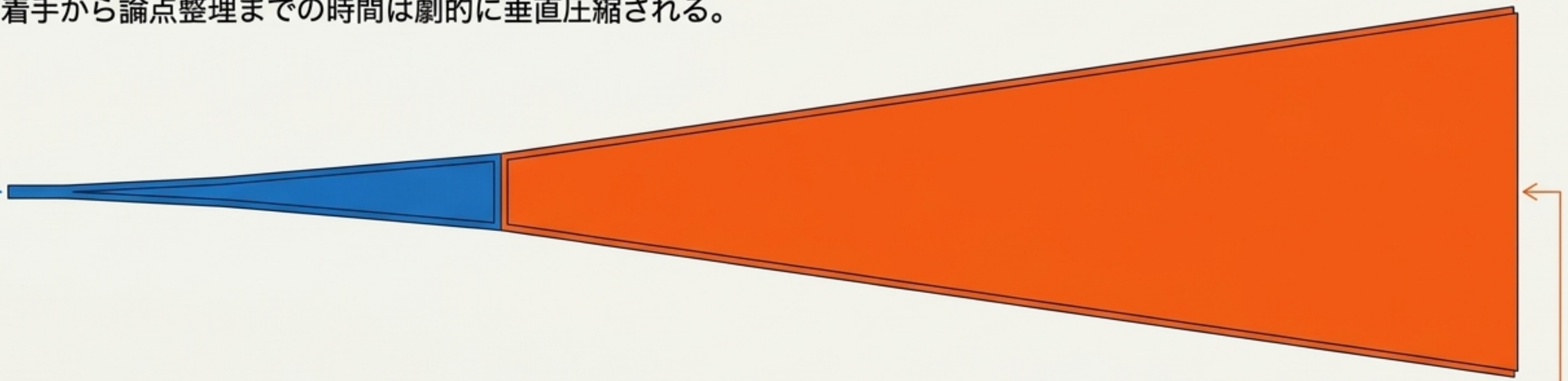
⚠ 注意：利用席数、短縮時間、ROI検証データは現時点で未確定（検証待ち）。

Gemini Notebook

総合所見：自動化の錯覚と、人間能力の増幅

「検索・抽出・整理」

AIによるプロセスの連結（自動化の広がり）により、
着手から論点整理までの時間は劇的に垂直圧縮される。



「判断・戦略・権利化」

ツール間の往復は消滅するが、AIは「判断」を代替しない。
知財部門の役割は「検索する」ことから、「AIの出力（差分や提案）を評価し、事業判断に直結させる」ことへとシフトし、より高度な知的リソースが要求される。

Gemini Notebook

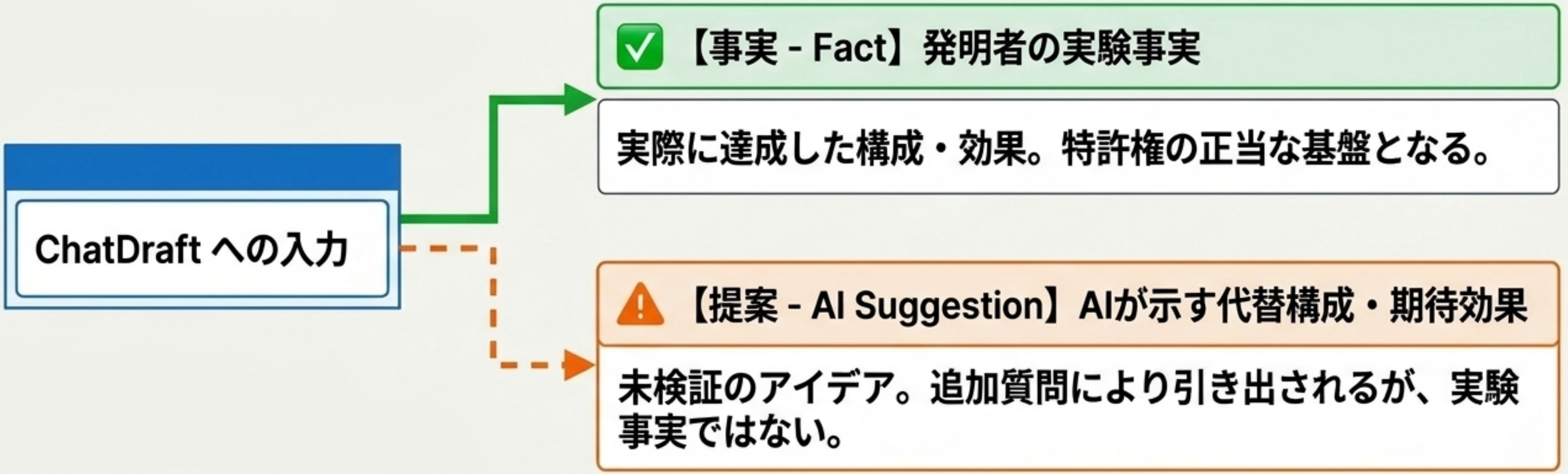
調査目的によるAI信頼性の断絶：特許性 vs 侵害予防

	✅ 先行技術調査（Prior Art）	⚠️ 侵害予防調査（FTO）
照合対象 (Target)	発明の構成と文献概念のマッチング	製品仕様の全構成要件と、国別の権利存続状況
AIの適性 (AI Fit)	極めて高い。類似概念の抽出に優れる。	単独では不十分。公報発行後の審査・補正の経過追跡が必要。
人間の介入 (Human Role)	AI要約の確認と取捨選択。	補正・訂正後の請求項の「原文」の厳密な読解。

⚠️ 警告：FTO調査の入口としてAIの検索語や対比表を利用する場合、最終的な「原文確認」を省略することは重大な知財リスクを招く。

Gemini Notebook

運用上の摩擦(1)：研究事実とAIハルシネーションの境界



厳格な記録分離の原則

研究ノートや発明届において、これらを混同して記録すると権利範囲の前提が崩壊する。知財担当は「事実」と「AIの提案」を明確に区別し、実施例・比較例の範囲を特定しなければならない。

Gemini Notebook

運用上の摩擦(2)：データガバナンスと証跡の保存



必須対応アクション

☐	検索履歴、参照資料の版、修正内容、承認者ログの社内環境への手動ダウンロードと長期保管。
☐	自動保存された最終報告書だけで、将来の訴訟時に「判断の正当性」を立証できるかの法務確認。
☐	共同研究先（パートナー）の機密データ入力に対する、案件単位での閲覧制限のテスト。

Gemini Notebook

導入評価プレイブック：過去10案件によるブラインドテスト

Sandbox / A-B Test

Step 1: データ選定



出願検討や研究レビューの「過去案件」を10件抽出。
既知の重要文献や最終判断（正解）はAIに入力せず伏せる。

Track A: 従来手順



担当者が従来手順で作成した結果。

Track B: AI支援



AI（MyTokkyo.Ai / IPGenius）支援による結果。

Step 3: 盲検評価



作成手法を伏せた状態で、独立した知財・研究担当者が結果を採点する。

Gemini Notebook

4軸の評価ルブリック（採点基準）

1. 網羅性 (Discovery Rate)

既知の重要文献が上位20件に含まれるか？対象国別の見落としを記録。



2. 精度・正確性 (Citation Accuracy)

AIの引用元は正しいか？数値範囲、単位の読み違い、重要な例外の欠落がないかを分類。



3. レビュー品質 (Review Quality)

実際の委員会で議論された「重大な論点」や「根拠不足」をAIが正しく捕捉・指摘できているか。



4. 総コスト (Total Cost & Effort)

ツールの入力準備、原文確認、修正にかかった総人時(手戻り時間を含む)の算出。



Gemini Notebook

結論：初期段階の加速と、ガバナンスの再構築

- 知財AIは、先行技術調査や発明相談の**「初動の劇的加速」**において既に実用・投資段階にある。
- しかし、FTO（侵害予防）、データ保存期限（180日）、ハルシネーション対策においては、企業独自の厳格な運用プロトコルが必要不可欠である。

価格の範囲

MyTokkyo.Ai: 初期費用0円 / 1ID 月額35,000円
（※R&DレビューAI・個別設定費は別途検証要）

Next Action

System Ready

「過去10案件のブラインドテスト」を開始し、自社の事業戦略における真のROIと手戻りコストを実測する。

Gemini Notebook